

今週のメニュー

■トピックス

◇2015年子どもとためす環境まつり

ー中央区明石小学校で開催、7年連続で参加ー

■随想

◇防災についての耳よりな情報

ー火事のことです。着物は燃えるんです。ー

公益財団法人 日本防災協会 近藤 敦彦

■編集後記

■トピックス

◇2015年子どもとためす環境まつり

ー中央区明石小学校で開催、7年連続で参加ー

10月31日(土)に、中央区環境保全ネットワーク主催、中央区・中央区教育委員会共催、環境省関東地方環境事務所、東京都環境局、東京商工会議所中央支部、中央区社会福祉協議会後援、34の企業・団体協賛、明石小学校PTA、築地警察署、東京カレッジ・オブ・カイロプラクティック協力、中央区立の小学校8校が参加し、「子どもとためす環境まつり」が、中央区立明石小学校で開催されました。塩ビ工業・環境協会(VEC)は、7年連続で参加・出展いたしました。

「子どもとためす環境まつり」は、子どもたちや地域の方々に環境問題についてより理解を深めてもらうことを目指し、次世代へ向けた体験学習型を活動の柱に据えている同ネットワークによるイベントで、今年で12回目となります。その活動が評価され、平成27年度3R推進功労者等表彰で「3R推進協議会会長賞」を受賞しました。当協会では「NPO法人持続可能な社会を作る元気ネット」と共同で参加したことを契機に、この活動に共鳴し、環境学習の応援をしています。



開会宣言

VECブースでは、いろいろなプラスチックがその特性に応じた様々な場面に使用され、暮らしに役立っていること、その中でも塩ビが省資源、長寿命な素材でマテリアルリサイクル性などの環境性能に優れていることなどを理解していただくため、製品を展示、紹介しています。今年は、集光フィルムをフライングディスクの形状でカットしたものを使って、自由にイラストを描いてもらい、オリジナルの「フライングディスク」をその場で作って、実際に触っていただくことでクリアカラーの軟質塩ビの良さを理解していただきました。



VECブース

フライングディスク作成風景

塩ビの特長を説明する展示品の食品サンプル、消しゴムなど子どもたちには人気でしたが、一緒に参加していただいたお父さん、お母さんたちには、省エネに貢献している塩ビ製樹脂窓の説明にも興味を持っていただき、参加された家族のみなさんの環境意識の高さを感じました。



VECブース

絶好の天气に恵まれ、矢田区長様をはじめ、非常に多くの地元の方々、小学生が参加され、「フライングディスク」もトータルで170名近くの方々に触れていただくことができました。この会の運用・推進に欠かせなくなっているサーモンプロジェクトの子どもたちも今年は例年の倍以上の48名近くが参加して活動してくれたとのことで、プロジェクトが着実に根付いているのを感じました。

中央区環境土木部の各課のみなさんによる「ミニカー」や「ミニブーケ」づくりなど、各ブースの色々な工作・体験学習などに参加された方々には有意義な時間を過ごされたことと思います。また、毎年参加していただいている子どもたちの多さに驚きました。

お世話をされた実行委員会の方々の努力で今年も無事に終えることが出来ました。感謝致しますと共に、今後とも、この地道な活動を応援していきたいと思っています。

■ 随想

◇ 防災についての耳よりな情報

— 火事のことです。着物は燃えるんです。 —

公益財団法人 日本防災協会 近藤 敦彦

折りしも11月9日より「全国秋の火災予防運動」が始まっていますが、特にこれから冬になるとテレビ新聞などのニュースでは、必ずと言っていいくらい犠牲者が出た火災の恐ろしさが取り上げられます。

近年、日本国内では年間平均約5万件の火災が発生し、そのうち約半分が住宅で発生しています。火災での死者も約1000名で、その内65歳以上の高齢者の占める割合は、年々増加傾向にあり約70%を占めています。これは、火災発生件数が10年前に比べて減少傾向にある中であって、高齢者の犠牲が増加していることは、如実に高齢化社会の一端を表しており、安心安全を図らなければならない喫緊の課題であると思います。



犠牲者が発生する一例をあげます。台所で炊事中に発生することを想像してみてください。ガスコンロにかけた鍋の下横から出ている炎が着物の袖口に着き、それに気づくのが遅れ全身に火が回ります。気付いた時には、着火した炎から出る有毒ガスを吸い、炎の熱を吸って気道熱傷により呼吸困難となり倒れてしまいます。いわゆる「着衣着火」の例です。

若い人なら着た衣類に火が着いても、近くの水道に素早く移動し蛇口を開くことが出来るでしょう。でも、それが出来ずに、気付くのが遅れば遅れるほど悲惨な状況になることが想像出来ます。

住宅用火災警報器の義務設置などの効果により減少する火災件数とは逆に増加する高齢者の犠牲を減らすためには、やはり、身のまわりを燃えにくいもので備えるのも大切です。キッチン周りを電化するにも安価ではありません。炊事中に効果があるとして防災性能がある割烹着、腕カバー、エプロンの着用を勧めています。



左；防災製品、右；非防災製品、いずれも同時着火して約 50 秒経過後の状況

その他身のまわりで使うものとしては、寝具類の布団、枕カバー、シーツ、パジャマなどの防災製品があります。一人暮らしを心配する親族の方で、敬老の日や誕生日の贈り物として買い求める人が多いと聞いています。

人類は太古からうまく火と付き合ってきました。タバコの小さな火でも大火災になります。油断してはいけません。備えあれば憂いなし。ぜひ、防災製品で火災から身を守ることを考えてみてはいかがでしょうか。弊協会の web にて「[防災製品のいろいろ](#)」をご覧ください。

■ 編集後記

10月下旬に、奥飛騨温泉郷 平湯温泉に行ってきました。山の上の方は紅葉が終わりかけていましたが、ふもとの方は見事な紅葉でした。

旅行を計画しても天気と紅葉の両方の条件を満足させるのは難しいのですが、今回は運よく両方に恵まれました。湯に浸かりながら、空の青と紅葉の黄色と赤色の見事なコントラストを観賞することができ、桃源郷にいるような気分でした。(ヨッシー)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp

